

博士論文

権威主義体制を近代化するチュニジア（1956－2008）

早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程

福富満久

2009年11月

はじめに

1.問題の所在	9
2.本論文の目的	12
3.本論文の構成	15

第一編 民主化論の限界

第一章 中東・北アフリカ地域と民主化論

第一節 オリエンタリズム的視点	
1.民主化論で見たアラブ諸国の実態	19
2.宗教決定論	23
3.市民社会の欠如	25
4.アラブ諸国と選挙	29
第二節 民主化移行論の限界	
1.体制変動と民主化	32
2.アクター中心仮説	34
3.民主主義の定着	37
4.自由化と移行	39
5.制度への注目	41
少括ー「民主化移行論」の終わりー	44

第二章 オリエンタリズムから比較政治学へ

第一節 中東・北アフリカ地域再考	
1.国家を分析の中心へ	53
2.歴史の悲劇	56
3.対西欧イデオロギー	58
第二節 石油と政治経済ーレンティア国家	
1.レンティア国家論	60
2.レントの効果と中東	63
少括	65

第二編 権威主義体制を近代化するチュニジア

第三章 保護領から近代国家へ—ブルギバ体制の構築

第一節 二つの世界大戦と抵抗運動の萌芽	
1.抵抗の兆し—第一次世界大戦の余波と世界恐慌	69
2.抵抗運動のはじまり	71
3.抵抗と懐柔—第二次世界大戦の傷跡と中東戦争	75
第二節 独立へ向けて	
1.保護領の矛盾	79
2.激化する独立闘争	82
3.チュニジアの危機	85
第三節 独立国家への歩み	
1.独立交渉	88
2.内部対立	91
3.独立とブルギバ体制の構築	94

第四章 ブルギバ政治体制

第一節 ブルギバ体制の構築	
1.共和政体の理念と実践：近代化という正当性	97
2.ネオ・デストゥール党と国家の一体化	100
3.直面する諸問題と権威主義的解決	104
4.フランスとの関係	106
第二節 党と労働組合—双頭体制	
1.社会主義の導入	110
2.社会主義の停止と修正	112
3.党と組合—双頭体制の確立	114
4.外交—リビアとの接近	117
5.開発主義	119
第三節 揺れ動くブルギバ体制	
1.抵抗勢力の出現—二つの野党、三つの社会勢力	121
2.双頭体制の崩壊	122
3.ガフサ事件と軍の台頭	124
4.さらなる民主化—野党の合法化	127
第四節 体制崩壊の軌跡	
1.低迷する石油開発	129
2.迫られる構造調整とパン暴動	133
3.SAPとイスラム勢力の台頭	136
小括—ブルギバ体制の終焉—	138

第五章 ベン・アリ政治体制

第一節 新体制と政治改革

- 1.クーデター 141
- 2.国民協定 (Pacte National) 143
- 3.対話と弾圧 145

第二節 政治システムと統制民主主義

- 1.多党制の導入と擬似野党 147
- 2.前衛政党 RCD の正体 148
- 3.市民社会の統制 151

第三節 国家発展戦略—経済と外交

- 1.自由貿易協定 (FTA) 154
- 2.ガス・ゲートウェー戦略 157
- 3.石油・天然ガス資源とレント配分 159
- 4.全方位外交 166

第四節 名君か、独裁者か

- 1.憲法改正—四選へむけて 169
- 2.巧みな外交・欧米からの支援 172
- 3.RCD 対野党 175
- 4.独裁者か、近代主義者か 180

結論 —権威主義体制を近代化する— 187

略語一覧 198
参考文献 203
年表 214

チュニジア共和国



出所 : <http://www.ezmapfinder.com/jp/map-10634.html> [2008/11/27]

